



## 使用可能なコマンド

---

この章では、IPS 5.0 のコマンドをアルファベット順に示します。

次の項があります。

- [banner login \(P.2-3\)](#)
- [clear denied-attackers \(P.2-4\)](#)
- [clear events \(P.2-5\)](#)
- [clear line \(P.2-6\)](#)
- [clock set \(P.2-8\)](#)
- [configure \(P.2-9\)](#)
- [copy \(P.2-10\)](#)
- [display-serial \(P.2-13\)](#)
- [downgrade \(P.2-14\)](#)
- [end \(P.2-15\)](#)
- [erase \(P.2-16\)](#)
- [exit \(P.2-17\)](#)
- [iplog \(P.2-18\)](#)
- [iplog-status \(P.2-19\)](#)
- [more \(P.2-21\)](#)
- [more begin \(P.2-23\)](#)
- [more exclude \(P.2-25\)](#)
- [more include \(P.2-27\)](#)
- [packet \(P.2-28\)](#)
- [password \(P.2-30\)](#)
- [ping \(P.2-32\)](#)
- [privilege \(P.2-33\)](#)
- [recover \(P.2-34\)](#)
- [reset \(P.2-35\)](#)
- [service \(P.2-36\)](#)
- [setup \(P.2-39\)](#)
- [show begin \(P.2-44\)](#)
- [show clock \(P.2-46\)](#)

- [show configuration \(P.2-47\)](#)
- [show events \(P.2-47\)](#)
- [show exclude \(P.2-49\)](#)
- [show history \(P.2-50\)](#)
- [show include \(P.2-51\)](#)
- [show interfaces \(P.2-52\)](#)
- [show inventory \(P.2-54\)](#)
- [show privilege \(P.2-55\)](#)
- [show settings \(P.2-56\)](#)
- [show ssh authorized-keys \(P.2-59\)](#)
- [show ssh server-key \(P.2-60\)](#)
- [show ssh host-keys \(P.2-61\)](#)
- [show statistics \(P.2-62\)](#)
- [show tech-support \(P.2-64\)](#)
- [show tls-fingerprint \(P.2-66\)](#)
- [show tls trusted-hosts \(P.2-67\)](#)
- [show users \(P.2-68\)](#)
- [show version \(P.2-70\)](#)
- [ssh authorized-key \(P.2-72\)](#)
- [ssh generate-key \(P.2-73\)](#)
- [ssh host-key \(P.2-74\)](#)
- [terminal \(P.2-76\)](#)
- [tls generate-key \(P.2-77\)](#)
- [tls trusted-host \(P.2-78\)](#)
- [trace \(P.2-80\)](#)
- [upgrade \(P.2-81\)](#)
- [username \(P.2-82\)](#)

# banner login

端末画面に表示するバナー メッセージを作成するには、グローバル構成モードで **banner login** コマンドを使用します。ログインバナーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。バナーメッセージは、ユーザが CLI にアクセスしたときに、ユーザ名プロンプトとパスワードプロンプトの前に表示されます。

## banner-login

## no banner-login

構文説明	引数	CLI にログインする前に表示されるテキスト。メッセージの最大長は 2500 文字です。改行または疑問符 (?) を入力する場合は、その前にキーストローク <b>Ctrl+V</b> を入力する必要があります。
デフォルト		デフォルトの動作または値はありません。
コマンドモード		グローバル構成
サポートされるユーザロール		管理者
コマンド履歴	リリース	修正
	5.0	このコマンドを導入。

## 使用上のガイドライン

**banner login** コマンドによって、端末画面に表示される 2500 文字までのテキストメッセージを作成できます。このメッセージは、CLI にアクセスしたときに表示されます。**Ctrl+V** を入力してから改行または疑問符 (?) を入力することによって、改行または疑問符をメッセージに含めることができます。改行は、作成したテキストメッセージでは **^M** と表示されますが、ユーザに対してメッセージが表示されるときは、実際の改行として表示されます。

Message プロンプトで **Ctrl+C** を入力すると、メッセージの要求がキャンセルされます。



(注) このコマンドの形式は、IOS 12.0 の実装とは異なります。

## 例

次の例は、ログイン時に端末画面に表示されるメッセージを作成します。

```
sensor(config)# banner login
Banner[: This message will be displayed on login. ^M Thank you!
```

ログイン時に、次のメッセージが表示されます。

```
This message will be displayed on login.
```

```
Thank you!
password:
```

# clear denied-attackers

現在の拒否 IP アドレスのリストを削除するには、特権 EXEC モードで **clear denied-attackers** を使用します。

## clear denied-attackers

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者

コマンド履歴	リリース	修正
	5.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** **clear denied-attackers** コマンドによって、拒否する攻撃者のリストをクリアし、以前拒否した IP アドレスとの通信を復元できます。このリストの IP アドレスを個別に選択し、削除することはできません。拒否する攻撃者のリストをクリアすると、リストからすべての IP アドレスが削除されます。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

**例** 次の例は、拒否する攻撃者のリストからすべての IP アドレスを削除します。

```
sensor# clear denied-attackers
Warning: Executing this command will delete all addresses from the list of attackers
currently being denied by the system.
Continue with clear? []: yes
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show statistics denied-attackers</b>	拒否する攻撃者のリストを表示します。

# clear events

イベントストアをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear events** コマンドを使用します。

## clear events

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用すると、イベントストアからすべてのイベントをクリアできます。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

**例** 次の例は、イベントストアをクリアします。

```
sensor# clear events
Warning: Executing this command will remove all events currently stored in the event
store.
Continue with clear? []:yes
sensor#
```

# clear line

別の CLI セッションを終了するには、特権 EXEC モードで **clear line** コマンドを使用します。

**clear line** *cli-id* [message]

## 構文説明

<i>cli-id</i>	ログインセッションに関連付けられている CLI ID 番号。 <b>show users</b> コマンドを参照してください。
message	選択した場合、受信するユーザに送信するメッセージを要求するプロンプトが表示されます (オプション)。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## コマンド履歴

リリース	修正
5.0	このコマンドを導入。

## サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ、ビューア



(注) オペレータとビューアは、現在のログインと同じユーザ名の回線のみをクリアできます。

## 使用上のガイドライン

**clear line** コマンドを使用して、別の回線で実行中の特定のセッションをログアウトさせます。終了しようとするログインセッションの端末に表示するオプションのメッセージを含めるには、**message** キーワードを使用します。

**clear line** コマンドを使用して、サービス アカウント ログインをクリアすることはできません。



(注) **message** キーワードは、このコマンドの IOS 12.0 ではサポートされていませんでした。

## 例

次の例は、最大セッション数に達した後、管理者権限を持つユーザがログインしようとしたときに表示される出力を示します。

```
Error: The maximum allowed CLI sessions are currently open, would you like to
terminate one of the open sessions? [no] yes
CLI   ID      User Privilege
1253  admin1  administrator
1267  cisco   administrator
1398  test    operator

Enter the CLI ID to clear: 1253
Message: Sorry! I need access to the system, so I am terminating your session.
sensor#
```

次の例は、admin1 の端末に表示されるメッセージを示します。

```
sensor#  
***  
***  
Termination request from Admin0  
***  
Sorry! I need access to the system, so I am terminating your session.
```

次の例は、最大セッション数に達した後、オペレータまたはビューア権限を持つユーザがログインしようとしたときに表示される出力を示します。

```
Error: The maximum allowed CLI sessions are currently open, please try again later.
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show users</b>	CLI にログインしているユーザに関する情報を表示します。

# clock set

アプライアンスのシステム クロックを手動で設定するには、特権 EXEC モードで **clock set** コマンドを使用します。

**clock set** *hh:mm[:ss] month day year*

構文説明	
<i>hh:mm[:ss]</i>	時 (24 時形式)、分、および秒形式の現在時間
<i>month</i>	現在月 (月名)
<i>day</i>	月の現在日 (日)
<i>year</i>	現在年 (省略なし)

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンド モード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** 次の場合、システム クロックを設定する必要はありません。

- システムが、NTP または VINES クロック ソースなど、有効な外部タイミング機構と同期化されている場合
- カレンダー機能を持つルータを使用している場合

その他の時刻源を使用できない場合に、**clock set** コマンドを使用します。このコマンドで指定する時間は、設定した時間帯での相対時間です。

**例** 次の例は、システム クロックを手動で 2002 年 7 月 29 日午後 1 時 32 分に設定します。

```
sensor# clock set 13:32 July 29 2002
sensor#
```



# configure

グローバル構成モードに入るには、特権 EXEC モードで **configure terminal** コマンドを使用します。

## **configure terminal**

構文説明	<b>terminal</b> ターミナルから構成コマンドを実行します。
デフォルト	デフォルトの動作または値はありません。
コマンドモード	EXEC
サポートされるユーザーロール	管理者、オペレータ、ビューア
使用上のガイドライン	<b>configure terminal</b> コマンドを実行すると、グローバル構成モードにすることができます。
例	次の例は、モードを特権 EXEC モードからグローバル構成モードに変更します。  <pre>sensor# <b>configure terminal</b> sensor(config)#</pre>

# copy

IP ログおよび構成ファイルをコピーするには、特権 EXEC モードで **copy** コマンドを使用します。

**copy** [/erase] *source-url destination-url*

**copy iplog** *log-id destination-url*

## 構文説明

<b>/erase</b>	コピーする前に宛先ファイルを消去します。このキーワードは現行の構成だけに適用され、バックアップ構成は常に上書きされます。このキーワードが宛先の現行の構成に対して指定されると、ソース構成がシステムのデフォルト構成に適用されます。宛先の現行の構成に対して指定されない場合、ソース構成は現行の構成とマージされます。(オプション)。
<i>source-url</i>	コピーされるソースファイルの場所。URL またはキーワードが一般的です。
<i>destination-url</i>	コピーされる宛先ファイルの場所。URL またはキーワードが一般的です。
<i>log-id</i>	コピーするファイルのログ ID。 <b>iplog-status</b> コマンドを使用して、 <b>log-id</b> を取得します。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ (copy iplog または packet-file のみ)、ビューア (copy iplog または packet-file のみ)

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

## 使用上のガイドライン

ソースおよび宛先 URL の正確なフォーマットは、ファイルにより異なります。次の有効なタイプがサポートされています。

プレフィックス	ソースまたは宛先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのソースまたは宛先 URL。このプレフィックスの構文は、次のとおりです。 ftp://[username@] location[/relativeDirectory]/filename ftp://[username@]location//absoluteDirectory/filename
scp:	SCP ネットワーク サーバのソースまたは宛先 URL。このプレフィックスの構文は、次のとおりです。 scp://[username@] location[/relativeDirectory]/filename scp://[username@] location//absoluteDirectory/filename
http:	Web サーバのソース URL。このプレフィックスの構文は、次のとおりです。 http://[username@]location/directory/filename ソース URL のみを使用できます。

プレフィックス	ソースまたは宛先
https:	Web サーバのソース URL。このプレフィックスの構文は、次のとおりです。  https:[[/username@]location]/directory/filename  ソース URL のみを使用できます。

センサーのファイルの場所を指定するには、キーワードを使用します。次のファイルがサポートされています。

キーワード	ソースまたは宛先
<b>current-config</b>	現在実行中の構成。この構成は、IOS 12.0 の場合と異なり、コマンドが入力されると永続になります。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
<b>backup-config</b>	構成バックアップの保管場所。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
<b>iplog</b>	システムに組み込まれている iplog。IP ログはログ ID を基に検索されます。 <b>iplog-status</b> コマンドの出力を参照してください。IP ログはバイナリで保存され、ログビューアで表示されます。
<b>license-key</b>	加入ライセンス ファイル。
<b>packet-file</b>	<b>packet capture</b> コマンドを使用してキャプチャされ、ローカルに保管されている libpcap ファイル。

選択したプロトコルが FTP または SCP の場合、パスワードのプロンプトが表示されます。FTP セッションにパスワードが必要でない場合は、何も入力しないで Return キーを押します。

コマンドラインですべての必要なソースおよび宛先 URL 情報とユーザ名を入力するか、または **copy** コマンドを入力して、不足している情報をセンサーからプロンプトで要求させることができます。



警告

システム センシング インターフェイスと仮想センサーの構成が異なる別のセンサーから構成ファイルをコピーすると、エラーが発生することがあります。



(注) IOS バージョン 12.0 の **copy** コマンドはさらに柔軟性があり、異なる宛先間でコピーできます。

例

次の例は、IP アドレスが 10.1.1.1 のセンサーのディレクトリ / ファイル名 ~csidsuser/configuration/cfg から現行の構成にファイルをコピーします。ディレクトリとファイルは、csidsuser のホーム アカウントからの相対パスです。

```
sensor# copy scp://csidsuser@10.1.1.1/configuration/cfg current-config
Password: *****
WARNING: Copying over the current configuration may leave the box in an unstable
state.
Would you like to copy current-config to backup-config before proceeding? [yes]:
csidsuser@10.1.1.1's password:
cfg          100%
|*****| 36124
00:00
sensor#
```

次の例は、IP アドレスが 10.1.1.1 のセンサーのディレクトリ / ファイル名 ~csidsuser/iplog12345 に ID 12345 の iplog をコピーします。ディレクトリとファイルは、csidsuser のホーム アカウントからの相対パスです。

```
sensor# copy iplog 12345 scp://csidsuser@10.1.1.1/iplog12345
Password: *****
iplog          100%
|*****|
36124          00:00
sensor#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>iplog-status</b>	使用可能な IP ログの内容の説明を表示します。
<b>more</b>	論理ファイルの内容を表示します。
<b>packet</b>	インターフェイス上のライブトラフィックを表示またはキャプチャします。

# display-serial

すべての出力をシリアル接続に転送するには、グローバル構成モードで **display serial** コマンドを使用します。**no display-serial** コマンドを使用すると、ローカル端末への出力をリセットします。

**display-serial**

**no display-serial**

---

**構文説明**

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

---

**デフォルト**

デフォルトの設定は、**no display-serial** です。

---

**コマンド モード**

EXEC

---

**サポートされるユーザロール**

管理者、オペレータ

---

**コマンド履歴**

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

---

**使用上のガイドライン**

**display-serial** コマンドによって、ブート処理中にリモート コンソール (シリアル ポートを使用) でシステム メッセージを参照できます。このオプションが有効である限り、ローカル コンソールは使用できません。シリアル ポートに接続したときに、このオプションが設定されていないと、Linux が完全に起動してシリアル接続のサポートが有効になるまで、フィードバックを得られません。

---

**例**

次の例は、出力をシリアル ポートにリダイレクトします。

```
sensor(config)# display-serial
sensor(config)#
```

# downgrade

最新のアップグレードを削除するには、グローバル構成モードで **downgrade** コマンドを使用します。

## downgrade

### 構文説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

### コマンドモード

グローバル構成

### サポートされるユーザロール

管理者

### コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

### 例

次の例は、システムから最新のアップグレードを削除します。

```
sensor(config)# downgrade
Warning: Executing this command will reboot the system and downgrade to
IDS-K9-sp-4.1-4-S91.rpm. Configuration changes made since the last upgrade will be
lost and the system may be rebooted.
Continue with downgrade?: yes
sensor#
```

**downgrade** コマンドが使用できない場合 (たとえば、アップグレードが適用されていない場合)、次のメッセージが表示されます。

```
sensor# downgrade
Error: No downgrade available
sensor#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show version</b>	すべてのインストール済み OS パッケージ、シグニチャ パッケージ、およびシステムで実行中の IPS プロセスのバージョン情報を表示します。

# end

構成モードまたは構成サブモードを終了するには、グローバル構成モードで **end** コマンドを使用します。このコマンドは、最上位の EXEC メニューに戻ります。

**end**

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** すべてのモード

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ、ビューア

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**例** 次の例は、構成およびインターフェイス構成サブモードの終了方法を示します。

```
sensor# configure terminal
sensor(config)# interface fastethernet 0/0
sensor(config-if)# end
sensor#
```

# erase

論理ファイルを削除するには、特権 EXEC モードで **erase** コマンドを使用します。

```
erase { backup-config | current-config | packet-file }
```

構文説明	backup-config	current-config	packet-file
	現在実行中の構成。この構成は、IOS 12.0 の場合と異なり、コマンドが入力されると永続になります。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。	構成バックアップの保管場所。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。	packet capture コマンドを使用してキャプチャされ、ローカルに保管されている libpcap ファイル。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** このコマンドの IOS 12.0 バージョンでは、ファイルシステム全体を削除できました。IPS では、この概念はサポートされません。

**例** 次の例は、現行の構成ファイルを削除してすべての設定をデフォルトに戻します。このコマンドは、センサーのリポートを必要とする場合があります。

```
sensor# erase current-config
Warning: Removing the current-config file will result in all configuration being reset
to default, including system information such as IP address.
User accounts will not be erased. They must be removed manually using the "no
username" command.
Continue? []: yes
sensor#
```



# exit

構成モードを終了、またはアクティブなターミナル セッションを閉じて、特権 EXEC モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

## exit

### 構文説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

### コマンド モード

すべてのモード

### サポートされるユーザ ロール

管理者、オペレータ、ビューア

### コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

### 使用上のガイドライン

**exit** コマンドを使用すると、直前のメニュー レベルに戻ります。中に含まれるサブモードで変更を行った場合、変更を適用するかどうかを尋ねられます。**no** を選択すると、親サブモードに戻ります。

### 例

次の例は、直前のメニュー レベルに戻る方法を示します。

```
sensor# configure terminal
sensor(config)# exit
sensor#
```

# iplog

仮想センサーの IP ロギングを開始するには、特権 EXEC モードで **iplog** コマンドを使用します。このコマンドの **no** 形式を使用すると、仮想センサーのすべてのロギングセッション、**log-id** に基づく特定のロギングセッション、またはすべてのロギングセッションがディセーブルになります。

**iplog** *name ip-address* [ **duration** *minutes* ] [ **packets** *numPackets* ] [ **bytes** *numBytes* ]

**no iplog** [ **log-id** *log-id* | **name** *name* ]

## 構文説明

<i>name</i>	ロギングを開始および終了する仮想センサー。
<i>ip-address</i>	指定された IP アドレスが含まれるログパケットのみをロギングします。パラメータの詳細については、 <b>setup</b> コマンドを参照してください。
<i>minutes</i>	ロギングがアクティブな期間（分単位）。有効範囲は 1 ~ 60 です。デフォルトは 10 分です。
<i>numPackets</i>	ロギングするパケットの合計数。有効範囲は 0 ~ 4294967295 です。デフォルトは 1000 パケットです。値 0 は、無制限を意味します。
<i>numBytes</i>	ロギングする合計バイト数。有効範囲は 0 ~ 4294967295 です。値 0 は、無制限を意味します。
<i>log-id</i>	停止するロギングセッションのログ ID。ログ ID は、 <b>iplog-status</b> コマンドを使用することで取得できます。

## デフォルト

「構文説明」の表を参照してください。

## コマンドモード

EXEC

## サポートされるユーザーロール

管理者、オペレータ

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

## 使用上のガイドライン

パラメータを設定しないでこのコマンドを **no** 形式で使用すると、すべてのロギングが停止します。期間、パケット数、およびバイト数を入力すると、ロギングは最初のイベントが発生したときに終了します。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

## 例

次の例は、仮想センサー vs0 で、ソースまたは宛先アドレスに 10.2.3.1 を含むすべてのパケットのロギングを開始します。

```
sensor# iplog vs0 10.2.3.1
Logging started for virtual sensor vs0, IP address 10.2.3.1, Log ID 2342
WARNING: IP Logging will affect system performance.
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>iplog-status</b>	使用可能な IP ログの内容の説明を表示します。
	<b>packet</b>	インターフェイス上のライブトラフィックを表示またはキャプチャします。

## iplog-status

使用可能な IP ログの内容の説明を表示するには、特権 EXEC モードで **iplog-status** コマンドを使用します。

### iplog-status

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンド モード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ、ビューア

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	4.0(2)	このコマンドに <b>Status</b> フィールドを追加。

**使用上のガイドライン** ログが作成されたときのステータスは **added** です。最初のエントリがログに挿入されると、ステータスは **started** に変更されます。パケット数の上限に達するなどの条件によってログが終了すると、ステータスは **completed** に変更されます。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

■ **iplog-status****例**

次の例は、すべての IP ログのステータスを表示します。

```

sensor# iplog-status
Log ID:          2425
IP Address:      10.1.1.2
Virtual Sensor:  vs0
Status:          started
Start Time:      2003/07/30 18:24:18 2002/07/30 12:24:18 CST
Packets Captured: 1039438

Log ID:          2342
IP Address:      10.2.3.1
Virtual Sensor:  vs0
Status:          completed
Event ID:        209348
Start Time:      2003/07/30 18:24:18 2002/07/30 12:24:18 CST
End Time:        2003/07/30 18:34:18 2002/07/30 12:34:18 CST
sensor#

```


**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>iplog</b>	仮想センサーで IP ログインを開始します。

## more

論理ファイルの内容を表示するには、特権 EXEC モードで **more** コマンドを使用します。

**more** *keyword*

構文説明	<b>current-config</b>	現在実行中の構成。この構成は、IOS 12.0 の場合と異なり、コマンドが入力されると永続になります。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
	<b>backup-config</b>	構成バックアップの保管場所。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
デフォルト	デフォルトの動作または値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
サポートされるユーザロール	管理者、オペレータ ( <b>current-config</b> のみ)、ビューア ( <b>current-config</b> のみ)	
コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
使用上のガイドライン	IPS では、論理ファイルのみを表示できます。 パスワードなどの非表示フィールドは、管理者の場合にのみ表示されます。	
	 (注) IOS バージョン 12.0 のこのコマンドでは、デバイス内のさまざまなパーティションに格納されたファイルの内容を表示できます。	

例 次の例は、**more** コマンドの出力を示します。

```

sensor# more current-config
! -----
! Version 5.0(0.26)
! Current configuration last modified Thu Feb 17 04:25:15 2005
! -----
display-serial
! -----
service analysis-engine
exit
! -----
service authentication
exit
! -----
service event-action-rules rules0
exit
! -----
service host
network-settings
host-ip 10.89.147.31/25,10.89.147.126
host-name sensor
access-list 0.0.0.0/0
login-banner-text This message will be displayed on user login.
exit
time-zone-settings
offset -360
--MORE--

```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>more begin</b>	<b>more</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
<b>more exclude</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
<b>more include</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。

## more begin

**more** コマンドの出力を検索するには、特権 EXEC モードで **more begin** コマンドを使用します。このコマンドは、指定された正規表現を含む最初の行でフィルタ処理されない **more** コマンドの出力を開始します。

**more keyword | begin regular-expression**

構文説明	<i>keyword</i>	<b>backup-config</b>	現在実行中の構成。この構成は、IOS 12.0 の場合と異なり、コマンドが入力されると永続になります。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
		<b>current-config</b>	構成バックアップの保管場所。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
			縦棒は、出力処理指定が続くことを意味します。
	<i>regular-expression</i>		<b>more</b> コマンド出力に存在する任意の正規表現。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ (**current-config** のみ)、ビューア (**current-config** のみ)

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	4.0(2)	<b>more</b> コマンドの <b>begin</b> 拡張を導入。

**使用上のガイドライン** *正規表現* の引数は大文字小文字を区別し、複雑な照合の要件を指定できます。

例 次の例は、**more** コマンドの出力を検索して、正規表現「ip」以降を表示する方法を示します。

```

sensor# more current-config | begin ip
host-ip 10.89.147.31/25,10.89.147.126
host-name sensor
access-list 0.0.0.0/0
login-banner-text This message will be displayed on user login.
exit
time-zone-settings
offset -360
standard-time-zone-name CST
exit
exit
! -----
service interface
exit
! -----
service logger
exit
! -----
service network-access
user-profiles mona
enable-password foobar
exit
exit
! -----
service notification
--MORE--

```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>more exclude</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
<b>more include</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。
<b>show begin</b>	特定の <b>show</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
<b>show exclude</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
<b>show include</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。



## more exclude

**more** コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除するには、特権 EXEC モードで **more exclude** コマンドを使用します。

**more keyword | exclude regular-expression**

構文説明	<i>keyword</i>	<b>backup-config</b>	現在実行中の構成。この構成は、IOS 12.0 の場合と異なり、コマンドが入力されると永続になります。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
		<b>current-config</b>	構成バックアップの保管場所。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
			縦棒は、出力処理指定が続くことを意味します。
	<i>regular-expression</i>		<b>more</b> コマンド出力に存在する任意の正規表現。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ (**current-config** のみ)、ビューア (**current-config** のみ)

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	4.0(2)	<b>more</b> コマンドの <b>exclude</b> 拡張を追加。

**使用上のガイドライン** *正規表現* の引数は大文字小文字を区別し、複雑な照合の要件を指定できます。

例 次の例は、**more** コマンドの出力を検索して、正規表現「ip」を排除して表示する方法を示します。

```

sensor# more current-config | exclude ip
! -----
! Version 5.0(0.26)
! Current configuration last modified Thu Feb 17 04:25:15 2005
! -----
display-serial
! -----
service analysis-engine
exit
! -----
service authentication
exit
! -----
service event-action-rules rules0
exit
! -----
service host
network-settings
host-name sensor
access-list 0.0.0.0/0
login-banner-text This message will be displayed on user login.
exit
time-zone-settings
offset -360
standard-time-zone-name CST
--MORE--

```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>more begin</b>	<b>more</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
<b>more include</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。
<b>show begin</b>	特定の <b>show</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
<b>show exclude</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
<b>show include</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。

# more include

**more** コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示するには、特権 EXEC モードで **more include** コマンドを使用します。

**more keyword | include regular-expression**

構文説明	<i>keyword</i>	<b>backup-config</b>	現在実行中の構成。この構成は、IOS 12.0 の場合と異なり、コマンドが入力されると永続になります。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
		<b>current-config</b>	構成バックアップの保管場所。ファイルフォーマットは CLI コマンドです。
			縦棒は、出力処理指定が続くことを意味します。
	<i>regular-expression</i>		<b>more</b> コマンド出力に存在する任意の正規表現。

デフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード EXEC

サポートされるユーザ ロール 管理者、オペレータ (**current-config** のみ)、ビューア (**current-config** のみ)

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	4.0(2)	<b>more</b> コマンドの <b>include</b> 拡張を追加。

使用上のガイドライン 正規表現の引数は大文字小文字を区別し、複雑な照合の要件を指定できます。

例 次の例は、**more** コマンドの出力を検索して、正規表現「ip」を含む行のみを表示する方法を示します。

```
sensor# more current-config | include ip
host-ip 10.89.147.31/25,10.89.147.126
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>more begin</b>	<b>more</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
	<b>more exclude</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
	<b>show begin</b>	特定の <b>show</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
	<b>show exclude</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
	<b>show include</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。

# packet

インターフェイス上のライブ トラフィックを表示またはキャプチャするには、特権 EXEC モードで **packet** コマンドを使用します。**display** オプションを使用すると、ライブ トラフィックまたは以前にキャプチャしたファイル出力を画面に直接ダンプできます。**capture** オプションを使用すると、**libpcap** の出力をローカル ファイルにキャプチャできます。ローカル ファイル ストレージの場所は 1 か所だけなので、後続のキャプチャ要求によって既存のファイルは上書きされます。**copy** コマンドと **packet-file** キーワードを使用して、ローカル ファイルをマシンからコピーできます。ローカル ファイルを表示するには、**display packet-file** オプションを使用します。ローカル ファイルに関する情報がある場合は、**info** オプションを使用して表示できます。

```
packet display interface-name [snaplen length] [count count] [verbose] [expression
expression]
```

```
packet display packet-file [verbose] [expression expression]
```

```
packet display iplog id [verbose] [expression expression]
```

```
packet capture interface-name [snaplen length] [count count] [expression expression]
```

```
packet display file-info
```

## 構文説明

<i>interface-name</i>	インターフェイス名、インターフェイス タイプ (GigabitEthernet、FastEthernet、Management)、スロット / ポート。システムに存在する有効なインターフェイス名のみを入力できます。
<i>id</i>	表示する既存の IP ログ ID。
<b>file-info</b>	保管されているパケット ファイルに関する情報を表示します。
<b>verbose</b>	1 行の要約ではなく、各パケットのプロトコル ツリーを表示します (オプション)。
<i>length</i>	スナップショットの長さ。デフォルトは 0 です。有効範囲は 0 ~ 1600 です (オプション)。
<i>count</i>	キャプチャするパケット数。指定しない場合は、最大ファイル サイズをキャプチャすると、キャプチャは終了します (オプション)。
<i>expression</i>	パケット キャプチャ フィルタ式。この式が <b>tethereal</b> に直接渡されます。 <b>tcpdump</b> 式の構文と一致する必要があります (オプション)。

## デフォルト

「構文説明」の表を参照してください。

## コマンド モード

EXEC

## サポートされるユーザ ロール

管理者、オペレータ、ビューア (表示のみ)

## コマンド履歴

リリース	修正
5.0	このコマンドを導入。

## 使用上のガイドライン

ストレージは、1 つのローカル ファイルで使用可能です。このファイルのサイズは、プラットフォームによって異なります。可能な場合、要求したパケット カウントをキャプチャする前に最大ファイル サイズに達すると、メッセージが表示されます。**packet capture interface-name** コマンドは、同時に 1 ユーザのみが使用できます。2 番目のユーザが要求すると、キャプチャを実行しているユーザに関する情報が含まれたエラー メッセージが表示されます。インターフェイスに関わる設定変更を行うと、そのインターフェイスで実行中の **packet** コマンドが異常終了することがあります。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。



## 警告

このコマンドを実行すると、パフォーマンスが大幅に低下します。

ライブ表示またはファイル キャプチャを終了するには、**Ctrl+C** を押します。

式の構文については、**ethereal-filter** の **man** ページを参照してください。

**file-info** の表示は、次のとおりです。

Captured by: *user:id*, Cmd: *cliCmd*

Start: *yyyy/mm/dd hh:mm:ss zone*, End: *yyyy/mm/dd hh:mm:ss zone or in-progress*

ここで

*user* = キャプチャを開始したユーザのユーザ名

*id* = ユーザの CLI ID

*cliCmd* = キャプチャを実行するために入力したコマンド

## 例

次の例は、**fastethernet 0/0** で発生するライブ トラフィックを表示します。

```
sensor# packet display fastethernet0/0
Warning This command will cause significant performance degradation.
Executing command: tethereal -i fastethernet0/0
0.000000 10.89.147.56 -> 64.101.182.20 SSH Encrypted response packet len=56
0.000262 64.101.182.20 -> 10.89.147.56 TCP 33053 > ssh [ACK] Seq=3844631470
Ack=2972370007 Win=9184 Len=0
0.029148 10.89.147.56 -> 64.101.182.20 SSH Encrypted response packet len=224
0.029450 64.101.182.20 -> 10.89.147.56 TCP 33053 > ssh [ACK] Seq=3844631470
Ack=2972370231 Win=9184 Len=0
0.030273 10.89.147.56 -> 64.101.182.20 SSH Encrypted response packet len=224
0.030575 64.101.182.20 -> 10.89.147.56 TCP 33053 > ssh [ACK] Seq=3844631470
Ack=2972370455 Win=9184 Len=0
0.031361 10.89.147.56 -> 64.101.182.20 SSH Encrypted response packet len=224
0.031666 64.101.182.20 -> 10.89.147.56 TCP 33053 > ssh [ACK] Seq=3844631470
Ack=2972370679 Win=9184 Len=0
0.032466 10.89.147.56 -> 64.101.182.20 SSH Encrypted response packet len=224
0.032761 64.101.182.20 -> 10.89.147.56 TCP 33053 > ssh [ACK]
```

次の例は、保管されているキャプチャ ファイルに関する情報を表示します。

```
sensor# packet display file-info
Captured by: raboyd:5292, Cmd: packet capture fastethernet0/0
Start: 2004/01/07 11:16:21 CST, End: 2004/01/07 11:20:35 CST
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>iplog</b>	仮想センサーで IP ロギングを開始します。
	<b>iplog-status</b>	使用可能な IP ログの内容の説明を表示します。

## password

ローカル センサーのパスワードを更新するには、グローバル構成モードで **password** コマンドを使用します。管理者は、**password** コマンドを使用して既存のユーザのパスワードを変更することもできます。管理者は、コマンドの **no** 形式を使用して、ユーザ アカウントをディセーブルにできます。

### password

```
password [ name [ newPassword ] ]
```

```
no password [ name ]
```

構文説明	構文	説明
	<i>name</i>	ユーザ名を指定します。有効なユーザ名の長さは 1 ～ 64 文字です。ユーザ名の先頭は、英数字にする必要があります。その他の文字には、スペース以外のすべての文字を使用できます。
	<i>password</i>	このコマンドを入力すると、パスワードを要求されます。ユーザのパスワードを指定します。有効なパスワードの長さは 6 ～ 32 文字です。スペースおよび「?」以外のすべての文字を使用できます。

**デフォルト** cisco アカウントのデフォルトパスワードは **cisco** です。

**コマンド モード** グローバル構成

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ（現行ユーザのパスワードのみ）、ビューア（現行ユーザのパスワードのみ）

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** **password** コマンドを使用すると、現行ユーザのログインパスワードを更新できます。管理者は、このコマンドを使用して既存のユーザのパスワードを変更できます。この場合、管理者に現行パスワードのプロンプトは表示されません。

最後の管理者アカウントをディセーブルにしようとする、エラーが発生します。**password** コマンドを使用して、ディセーブルにしたユーザ アカウントを再びイネーブルにし、ユーザ パスワードをリセットします。

パスワードは IPS で保護されます。



(注) IOS バージョン 12.0 の **password** コマンドでは、パスワード行にクリアテキストで新規パスワードを入力できます。

## 例

次の例は、現行ユーザのパスワードの変更方法を示します。

```
sensor(config)# password
Enter Old Login Password: *****
Enter New Login Password: *****
Re-enter New Login Password: *****
sensor(config)#
```

次の例は、ユーザ `tester` のパスワードを変更します。このコマンドは、管理者のみが実行できます。

```
sensor(config)# password tester
Enter New Login Password: *****
Re-enter New Login Password: *****
sensor(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>username</code>	ローカル センサーのユーザを作成します。

# ping

基本的なネットワーク接続を診断するには、特権 EXEC モードで **ping** コマンドを使用します。

**ping** *address* [*count*]

構文説明	<i>address</i>	<i>count</i>
	ping の対象のシステムの IP アドレス。	
		送信するエコー要求数。値を指定しない場合、4 要求が送信されます。有効範囲は、1 ~ 10000 です。

デフォルト 「構文説明」 の表を参照してください。

コマンドモード EXEC

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

サポートされるユーザロール 管理者、オペレータ、ビューア

使用上のガイドライン このコマンドは、オペレーティング システムで用意されている **ping** コマンドを使用して実装されます。コマンドからの出力は、オペレーティング システムにより若干異なります。

例 次の例は、Solaris システムでの **ping** コマンドの出力を示します。

```
sensor# ping 10.1.1.1
PING 10.1.1.1: 32 data bytes
40 bytes from 10.1.1.1: icmp_seq=0. time=0. ms
40 bytes from 10.1.1.1: icmp_seq=1. time=0. ms
40 bytes from 10.1.1.1: icmp_seq=2. time=0. ms
40 bytes from 10.1.1.1: icmp_seq=3. time=0. ms

----10.1.1.1 PING Statistics----
4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss
round-trip (ms) min/avg/max = 0/0/0
sensor#
```

次の例は、Linux システムでの **ping** コマンドの出力を示します。

```
sensor# ping 10.1.1.1 2
PING 10.1.1.1 from 10.1.1.2 : 32(60) bytes of data.
40 bytes from 10.1.1.1: icmp_seq=0 ttl=255 time=0.2 ms
40 bytes from 10.1.1.1: icmp_seq=1 ttl=255 time=0.2 ms

--- 10.1.1.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.2/0.2/0.2 ms
sensor#
```



次の例は、到達不能アドレスに対する出力を示します。


```
sensor# ping 172.21.172.1
PING 172.21.172.1 (172.21.172.1) from 10.89.175.50 : 56(84) bytes of data.

--172.21.172.1 ping statistics--
5 packets transmitted, 0 packets received, 100% packet loss
sensor#
```

## privilege

既存のユーザの権限レベルを変更するには、グローバル構成モードで **privilege** コマンドを使用します。**username** コマンドでユーザを作成するときに、権限を指定することもできます。


**privilege user name [ administrator | operator | viewer ]**

構文説明	<i>name</i>	ユーザ名を指定します。有効なユーザ名の長さは1～64文字です。ユーザ名の先頭は、英数字にする必要があります。その他の文字には、スペース以外のすべての文字を使用できます。
デフォルト		デフォルトの動作または値はありません。
コマンドモード		グローバル構成
サポートされるユーザロール		管理者
コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
使用上のガイドライン		このコマンドを使用すると、ユーザの権限を変更できます。
		
(注)		このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。
例		次の例は、ユーザ「tester」の権限をオペレータに変更します。
		<pre>sensor(config)# privilege user tester operator Warning: The privilege change does not apply to current CLI sessions. It will be applied to subsequent logins. sensor(config)#</pre>
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>username</b>	ローカルセンサーのユーザを作成します。

# recover

回復パーティションに保存されているアプリケーション イメージでアプリケーション パーティションのイメージを再作成するには、特権 EXEC モードで **recover** コマンドを使用します。センサーは複数回リポートされて、ほとんどの構成（ネットワーク パラメータ、アクセス リスト パラメータ、時間パラメータ以外）がデフォルトの設定にリセットされます。

## recover application-partition

構文説明	<b>application-partition</b> アプリケーションパーティションのイメージを再作成します。				
デフォルト	デフォルトの動作または値はありません。				
コマンドモード	グローバル構成				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>修正</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0</td> <td>このコマンドを導入。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	修正	4.0	このコマンドを導入。
リリース	修正				
4.0	このコマンドを導入。				
サポートされるユーザロール	管理者				
使用上のガイドライン	<p>回復を続行する質問への有効な応答は、<b>yes</b> または <b>no</b> です。<b>Y</b> または <b>N</b> は、有効な応答ではありません。</p> <p>コマンドを実行後、すぐにシャットダウンが開始されます。シャットダウンに少し時間がかかるため、CLI コマンドへのアクセスを続行できますが（アクセスは拒否されない）、アクセスは警告なしで終了します。必要であれば、アプリケーションがシャットダウンしている間、画面にピリオド（.）を 1 秒ごとに表示して進行を示すことができます。</p> <p> (注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。</p>				


**例** 次の例は、回復パーティションに保存されているバージョン 4.0(1)S29 のイメージを使用して、アプリケーションパーティションのイメージを再作成します。

```
sensor(config)# recover application-partition
Warning: Executing this command will stop all applications and re-image the node to
version 5.0(1)Sx. All configuration changes except for network settings will be reset
to default.
Continue with recovery? []:yes
Request Succeeded
sensor(config)#
```

# reset

センサーで実行中のアプリケーションをシャットダウンし、アプライアンスをリブートするには、特権 EXEC モードで **reset** コマンドを使用します。**powerdown** オプションを使用した場合は、アプライアンスの電源がオフ（可能な場合）、または電源をオフにできる状態になります。

## reset[powerdown]

構文説明	<b>powerdown</b> このオプションを指定すると、アプリケーションのシャットダウン後、センサーにより電源がオフになります。
デフォルト	デフォルトの動作または値はありません。
コマンドモード	EXEC
コマンド履歴	リリース                      修正 4.0                                このコマンドを導入。
サポートされるユーザロール	管理者
使用上のガイドライン	リセットを続行する質問への有効な応答は、 <b>yes</b> または <b>no</b> です。 <b>Y</b> または <b>N</b> は、有効な応答ではありません。  コマンドを実行後、すぐにシャットダウンが開始されます。シャットダウン中の CLI コマンドへのアクセスは拒否されませんが、開いているセッションは、シャットダウンが完了すると同時に、警告なしに終了します。必要であれば、アプリケーションがシャットダウンしている間、画面にピリオド (.) を 1 秒ごとに表示して進行を示すことができます。
	 (注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。
例	次の例は、センサーをリブートします。  <pre>sensor# reset Warning: Executing this command will stop all applications and reboot the node. Continue with reset? []:yes sensor#</pre>

# service

さまざまなセンサー サービスの構成メニューに入るには、グローバル構成モードで **service** コマンドを使用します。このコマンドの **default** 形式を使用すると、アプリケーションの構成全体が、工場出荷時のデフォルトにリセットされます。

```
service { authentication | analysis-engine | event-action-rules name | host | interface | logger
          | network-access | notification | signature-definition name | ssh-known-hosts |
          trusted-certificate | web-server }
```

```
default service { authentication | analysis-engine | host | interface | logger | network-access
                 | notification | ssh-known-hosts | trusted-certificate | web-server }
```

## 構文説明

<b>authentication</b>	ユーザの認証に使用する方式の順序を設定します。
<b>analysis-engine</b>	グローバル分析エンジンパラメータを設定します。この設定によって、仮想センサーを作成し、シグニチャ定義、イベントアクションルール、およびセンシングインターフェイスを仮想センサーに割り当てることができます。
<b>event-action-rules</b>	イベントアクションルール設定のパラメータを設定します。この設定は、4.X アラームチャンネル設定を置き換えます。
<b>host</b>	システムクロック設定、アップグレード、および IP アクセスリストを設定します。
<b>interface-config</b>	物理インターフェイスとインラインインターフェイスのペアを設定します。
<b>logger</b>	デバッグレベルを設定します。
<b>network-access</b>	ネットワークアクセスコントローラに関連するパラメータを設定します。
<b>notification</b>	通知アプリケーションを設定します。
<b>signature-definition</b>	シグニチャ定義設定のパラメータを設定します。
<b>ssh-known-hosts</b>	システムの既知のホストキーを設定します。
<b>trusted-certificate</b>	信頼できる認証機関の X.509 証明書のリストを設定します。
<b>web-server</b>	Web サーバポートなど、Web サーバに関するパラメータを設定します。
<b>name</b>	イベントアクションルールまたはシグニチャ定義設定の論理名。



(注) 有効な名前は、イベントアクションルール用の **rules0** と、シグニチャ定義用の **sig0** の 2 つだけです。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンドモード

グローバル構成

## サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ、ビューア（表示のみ）

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	5.0	<b>default</b> キーワードを追加。通知アプリケーションのサポートを追加。

**使用上のガイドライン** このコマンドで、サービス固有のパラメータを設定できます。この構成の項目とメニューはサービスによって異なり、コマンドが実行されたときにサービスから取得した構成に基づいて動的に作成されます。



注意

このモードおよびその中に含まれるすべてのサブモードで行われた変更は、サービス モードを終了するときにサービスに適用されます。

コマンドモードは、コマンドプロンプトに表示されるサービス名で示されます。たとえば、`service authentication` では、次のプロンプトが表示されます。

```
sensor(config-aut)#
```

このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

`service event-action-rules` および `service signature-definition` モードでは、イベントをフィルタ処理する変数および構成ルールを作成できます。フィルタで変数を使用する場合は、変数の前にドル記号 (\$SIG1) を使用して、入力した文字列が変数であることを指定する必要があります。

複数の IP アドレスを入力する場合は、アドレスの間にカンマを使用します (スペースではありません)。IP アドレスの範囲は、A.B.C.D/b の形式で表します。ここで A.B.C.D は IP アドレスで、b は範囲を指定するために IP アドレスのマスクとなる下位ビット数です。たとえば、値 10.1.0.0/8 は、IP アドレスが 10.1.0.0 で、下位 8 ビットがマスクでオフにされ、範囲が 10.1.0.0 ~ 10.1.0.255 になります。allowPartialInput 属性が true に設定されている場合、部分 IP アドレスは IPv4 アドレスの範囲の一部として使用できます。範囲の値は包括的なので、10.2-10.3 は 10.2.0.0-10.3.255.255 と同じ値となります。範囲タイプデータには、範囲のセットを使用することもできます。範囲のセットはカンマで区切られた複数の範囲で構成されます。たとえば、10.1.9.20-10.1.9.30,10.1.10.40-10.1.10.50,10.2-10.3 です。

構成は、仮想センサーに割り当てられていない場合にだけ削除できます。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

**例** 次のコマンドは、認証サービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service authentication
sensor(config-aut)#
```

次のコマンドは、分析エンジンサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service analysis-engine  
sensor(config-ana)#
```

次のコマンドは、イベントアクションルールサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service event-action-rules rules0  
sensor(config-rul)#
```

次のコマンドは、ホストサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service host  
sensor(config-hos)#
```

次のコマンドは、インターフェイスサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service interface  
sensor(config-int)#
```

次のコマンドは、ロギングサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service logger  
sensor(config-log)#
```

次のコマンドは、NACサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service network-access  
sensor(config-net)#
```

次のコマンドは、SNMP通知サービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service notification  
sensor(config-not)#
```

次のコマンドは、シグニチャ定義サービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service signature-definition sig0  
sensor(config-sig)#
```

次のコマンドは、SSH既知のホストサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service ssh-known-hosts  
sensor(config-ssh)#
```

次のコマンドは、信頼できる認証サービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service trusted-certificate  
sensor(config-tru)#
```

次のコマンドは、Webサーバサービスの構成モードに入ります。

```
sensor(config)# service web-server  
sensor(config-web)#
```

# setup

基本的なセンサー設定を構成するには、特権 EXEC モードで **setup** コマンドを使用します。

## setup

### 構文説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

hostname : sensor

IP interface : 10.1.9.201/24,10.1.9.1

telnet-server : disabled

web-server port : 443

summer time : disabled

ユーザが summer time を enabled にした場合、デフォルトは次のとおりです。

Summertime type : Recurring

Start Month : april

Start Week : first

Start Day : sunday

Start Time : 02:00:00

End Month : october

End Week : last

End Day : sunday

End Time : 02:00:00

Offset : 60

システムの時間帯のデフォルトは、次のとおりです。

Timezone : UTC

UTC Offset : 0

### コマンド モード

EXEC

### サポートされるユーザ ロール

管理者

### コマンド履歴

リリース	修正
4.0(2)	アクセス リストおよび時間設定の構成を追加。

### 使用上のガイドライン

**setup** コマンドを使用すると、システム コンソール画面に System Configuration Dialog と呼ばれる対話型ダイアログが表示されます。System Configuration Dialog によって、構成プロセスの手順が示されます。

各プロンプトの横のカッコ内に示される値が、最後に設定されたデフォルト値です。

System Configuration Dialog を終了してから、項目の変更に移る必要があります。変更しない項目についてデフォルトの設定を受け入れるには、**Enter** を押します。

変更せず、また System Configuration Dialog を終了せずに EXEC プロンプトに戻るには、**Ctrl+C** を押します。

この機能には、各プロンプトに関するヘルプ テキストも用意されています。ヘルプ テキストにアクセスするには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

変更が完了すると、セットアップセッションで作成された構成が表示されます。この構成を保存するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。**yes** と入力すると、構成はディスクに保存されます。**no** と入力すると、構成は保存されず、処理が再開されます。このプロンプトに対するデフォルトはありません。**yes** または **no** と入力する必要があります。

構成可能パラメータの有効な範囲は、次のとおりです。

IP Address/Netmask/Gateway : *X.X.X.X/m,Y.Y.Y.Y*。ここで、

*X.X.X.X* は、ピリオドで区切られた 4 オクテットの 32 ビット アドレスとしてセンサーの IP アドレスを指定します。*X*=0 ~ 255 です。

*nn* は、ネットマスクのビット数を指定します。

*Y.Y.Y.Y* は、ピリオドで区切られた 4 オクテットの 32 ビット アドレスとしてデフォルト ゲートウェイを指定します。*Y*=0 ~ 255 です。

Host Name : 最大 256 文字の大文字小文字を区別する文字列。数字、「\_」、および「-」は有効ですが、スペースは使用できません。

システムが NTP を使用しない場合にのみ、setup モードでクロック設定を入力します。NTP コマンドは、別に用意されています。

夏時間は、recurring モードまたは date モードで設定できます。recurring モードを選択した場合、開始日と終了日は、週、曜日、月、時間に基づいて入力します。date モードを選択した場合、開始日と終了日は、月、日、年、時間に基づいて入力します。disable を選択すると、夏時間がオフになります。

表 2-1 に、クロック設定パラメータを示します。

**表 2-1 クロック設定パラメータ**

DST zone	サマータイムが有効なときに表示される時間帯の名前。
week	週 (1 ~ 5 または last)。
day	曜日 (Sunday、Monday など)。
date	日 (1 ~ 31)。
month	月 (January、February など)。
year	年。省略なし (2001 ~ 2035)。
hh:mm	開始 / 終了 DST (24 時形式) の時間と分。
offset	サマータイム中に加算する時間 (分)。デフォルトは 60 です (オプション)。
timezone	標準時が有効なときに表示される時間帯の名前。
hours	UTC からの時間差。
hh:mm:ss	時 (24 時形式)、分、および秒形式の現在時間。



デフォルトの仮想センサー vs0 の編集もできます。仮想センサーに混合 / インラインのペアの一方または両方を割り当て、割り当てたインターフェイスをイネーブルにできます。セットアップが完了すると、仮想センサーはトラフィックを監視するように設定されます。

**例**

次の例は、**setup** コマンドと System Configuration プログラムを示します。

```
sensor# setup
```

```
--- System Configuration Dialog ---
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.  
User ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.  
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Current Configuration:
```

```
service host  
network-settings  
host-ip 172.21.172.25/8,172.21.172.1  
host-name sensor  
telnet-option disabled  
access-list 10.0.0.0/24  
access-list 172.0.0.0/24  
ftp-timeout 300  
login-banner-text  
exit  
time-zone-settings  
offset 0  
standard-time-zone-name UTC  
exit  
summertime-option disabled  
ntp-option disabled  
exit  
service web-server  
port 443  
exit  
service interface  
physical-interfaces GigabitEthernet0/0  
admin-state enabled  
exit  
exit  
service analysis-engine  
virtual-sensor vs0  
physical-interface GigabitEthernet0/0  
exit  
exit
```

```
Current time: Wed May 5 10:25:35 2004
```

Setup Configuration last modified: Mon May 3 15:34:30 2004

```

Continue with configuration dialog?[yes]:
Enter host name[sensor]:
Enter IP interface[172.21.172.25/8,172.21.172.1]:
Enter telnet-server status[enabled]:
Enter web-server port[8080]: 80
Modify current access list? [no]: yes
Current access list entries:
    [1] 10.0.0.0/24
    [2] 172.0.0.0/24
Delete: 1
Delete:
Permit: 173.0.0.0/24
Permit:

Modify system clock settings? [no]: yes
Use NTP? [yes] no
Modify summer time settings? [no]: yes
Recurring, Date or Disable[recurring]:
Start Month[apr]:
Start Week[1]:
Start Day[sun]:
Start Time[02:00:00]:
End Month[oct]:
End Week[last]:
End Day[sun]:
End Time[02:00:00]:
DST Zone[]: CDT
Offset[60]:
Modify system timezone? [no]: yes
Timezone[UTC]: CST
GMT Offset [-360]
Modify virtual sensor (vs0) configuration?[no]: yes
Current interface configuration
Command control: GigabitEthernet0/1
Unused:
    GigabitEthernet2/1
    GigabitEthernet2/0
Promiscuous:
    GigabitEthernet0/0
Inline:
    None
Delete Promiscuous interfaces?[no]:
Add Promiscuous interfaces?[no]:
Add Inline pairs?[no]: yes
Pair name: test
Description[Created via setup by user cisco]:
Interface1[]: GigabitEthernet2/0
Interface2[]: GigabitEthernet2/1
Pair name:

```

The following configuration was entered.

```

service host
network-settings
host-ip 172.21.172.25/8,172.21.172.1
host-name sensor
telnet-option enabled
access-list 172.0.0.0/24
access-list 173.0.0.0/24
ftp-timeout 300
login-banner-text
exit

```

```
time-zone-settings
offset -360
standard-time-zone-name CST
exit
summertime-option recurring
offset 60
summertime-zone-name CDT
start-summertime
month april
week-of-month first
day-of-week sunday
time-of-day 02:00:00
exit
end-summertime
month october
week-of-month last
day-of-week sunday
time-of-day 02:00:00
exit
exit
ntp-option disabled
exit
service web-server
port 80
exit
service interface
physical-interfaces GigabitEthernet0/0
admin-state enabled
exit
physical-interfaces GigabitEthernet2/1
admin-state enabled
exit
physical-interfaces GigabitEthernet2/0
admin-state enabled
exit
inline-interfaces test
description Created via setup by user cisco
interface1 GigabitEthernet2/0
interface2 GigabitEthernet2/1
exit
exit
service analysis-engine
virtual-sensor vs0
physical-interface GigabitEthernet0/0
logical-interface test
exit
exit
```

- [0] Go to the command prompt without saving this config.
- [1] Return back to the setup without saving this config.
- [2] Save this configuration and exit.

```
Enter your selection [2]:
Configuration Saved.
Modify system date and time? [no] yes
  Local Date[]: 2003-01-18
  Local Time[4:33:49]: 10:33:49
System Time Updated successfully
sensor#
```

# show begin

**show** コマンドの出力を検索するには、特権 EXEC モードで **show begin** コマンドを使用します。このコマンドは、指定された正規表現を含む最初の行でフィルタ処理されない **show** コマンドの出力を開始します。

```
show [ configuration | events | settings ] | begin regular-expression
```

## 構文説明

	縦棒は、出力処理指定が続くことを意味します。
regular-expression	show コマンド出力に存在する任意の正規表現。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ (current-config のみ)、ビューア (current-config のみ)

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。
4.0(2)	<b>show</b> コマンドの <b>begin</b> 拡張を追加。

## 使用上のガイドライン

正規表現の引数は大文字小文字を区別し、複雑な照合の要件を指定できます。

## 例

次の例は、正規表現「ip」から始まる出力を示します。

```
sensor# show configuration | begin ip
host-ip 10.89.147.31/25,10.89.147.126
host-name sensor
access-list 0.0.0.0/0
login-banner-text This message will be displayed on user login.
exit
time-zone-settings
offset -360
standard-time-zone-name CST
exit
exit
! -----
service interface
exit
! -----
service logger
exit
! -----
service network-access
user-profiles mona
enable-password foobar
exit
exit
! -----
service notification
--MORE--
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>more begin</b>	<b>more</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
<b>more exclude</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
<b>more include</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。
<b>show exclude</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
<b>show include</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。

# show clock

システムクロックを表示するには、特権 EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

## show clock [detail]

構文説明	<b>detail</b>	クロック ソース (NTP またはシステム) および現行のサマータイム設定 (設定されている場合) を示します (オプション)。
デフォルト		デフォルトの動作または値はありません。
コマンドモード	EXEC	
サポートされるユーザロール		管理者、オペレータ、ビューア
コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
使用上のガイドライン		システムクロックは「保証」フラグを保持して、時間が保証されるか (正確と見なされるか) どうかを示します。システムクロックが NTP などのタイミング ソースで設定された場合、このフラグがセットされます。表 2-2 に保証フラグを示します。

**表 2-2 保証フラグ**

記号	説明
*	時間は保証されない。
(ブランク)	時間は保証される。
.	時間は保証されるが、NTP は同期化されない。

例 次の例は、設定され、同期化された NTP を示します。

```
sensor# show clock detail
12:30:02 CST Tues Dec 19 2002
Time source is NTP
Summer time starts 03:00:00 CDT Sun Apr 7 2003
Summer time ends 01:00:00 CST Sun Oct 27 2003
sensor#
```

次の例は、時刻源が設定されていないことを示します。

```
sensor# show clock
*12:30:02 EST Tues Dec 19 2002
sensor#
```

次の例は、時刻源が設定されていないことを示します。

```
sensor# show clock detail
*12:30:02 CST Tues Dec 19 2002
No time source
Summer time starts 02:00:00 CST Sun Apr 7 2003
Summer time ends 02:00:00 CDT Sun Oct 27 2003
```

## show configuration

**more** コマンドの **more current-config** コマンドを参照してください。

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0(2)	このコマンドを追加。

## show events

ローカル イベント ログの内容を表示するには、特権 EXEC モードで **show events** コマンドを使用します。

```
show events [ { [alert [ informational ] [ low ] [ medium ] [ high ] [include-traits traits]
[exclude-traits traits] | error [ warning ] [ error ] [fatal ] | log | NAC | status } ] [hh:mm:ss [
month day [ year ] ] | past hh:mm:ss ]
```

構文説明	
<b>alert</b>	アラートを表示します。侵入攻撃が行われているまたは試みられた可能性のある動作を通知します。アラート イベントは IPS シグニチャがネットワーク アクティビティでトリガーされると常に分析エンジンによって生成されます。レベル (情報、低、中、高) が選択されていない場合、すべてのアラート イベントが表示されます。
<b>include-traits</b>	指定された <i>traits</i> のあるアラートを表示します。
<b>exclude-traits</b>	指定された <i>traits</i> のあるアラートを表示しません。
<i>traits</i>	10 進 (0 ~ 15) の特性ビット位置。
<b>error</b>	エラー イベントを表示します。エラー イベントは、エラー条件が発生したときにサービスによって生成されます。レベル (警告、エラー、重大) が選択されていない場合、すべてのエラー イベントが表示されます。
<b>log</b>	ログ イベントを表示します。これらのイベントは、トランザクションが受信され、アプリケーションによって応答されたときに常に生成されます。要求、応答、およびトランザクションの成功または失敗についての情報が含まれます。
<b>NAC</b>	NAC 要求 (ブロック要求) を表示します。
<b>status</b>	状況イベントを表示します。
<i>hh:mm:ss</i>	時 (24 時形式)、分、および秒形式の開始時間。
<i>day</i>	月の開始日 (日)。
<i>month</i>	開始月 (月の名前)。
<i>year</i>	開始年 (省略なし)。
<b>past</b>	今までに開始したイベントを表示します。 <i>hh:mm:ss</i> に表示を開始する過去の時間を指定します。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンド モード** EXEC

## show events

サポートされるユーザロール 管理者、オペレータ、ビューア

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。
4.02	複数のエラー イベント レベルを同時に選択できる機能を追加。
4.1(1)	<b>include-traits</b> 、 <b>exclude-traits</b> 、および <b>past</b> オプションを追加。

## 使用上のガイドライン

**show events** コマンドを使用すると、要求された開始時間に始まる要求イベント タイプを表示できます。開始時間が入力されていない場合、現行時間に開始する選択されたイベントが表示されます。イベント タイプが入力されていない場合、すべての イベントが表示されます。イベントは、ライブ フィードとして表示されます。ライブ フィードをキャンセルするには、**Ctrl+C** を押します。

**show events** コマンドで正規表現 | **include shunInfo** を使用すると、イベントのソース アドレスなどのブロッキング情報を表示できます。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

## 例

次の例は、2000 年 12 月 25 日 10 時に開始したブロック要求を表示します。

```
sensor# show events NAC time 10:00:00 Dec 25 2000
```

次の例は、現行時間に開始するエラーおよび重大エラー メッセージを表示します。

```
sensor# show events error fatal error
```

次の例は、2000 年 12 月 25 日 10 時に開始したすべてのイベントを表示します。

```
sensor# show events 10:00:00 Dec 25 2000
```

次の例は、過去 30 秒に開始したすべてのイベントを表示します。

```
sensor# show events past 00:00:30
```

次の出力は、XML コンテンツから取得されます。

```
evAlert: eventId=1025376040313262350 severity=high
originator:
  deviceName: sensor1
  appName: sensorApp
time: 2002/07/30 18:24:18 2002/07/30 12:24:18 CST
signature: sigId=4500 subSigId=0 version=1.0 IOS Embedded SNMP Community Names
participants:
  attack:
    attacker: proxy=false
    addr: 132.206.27.3
    port: 61476
  victim:
    addr: 132.202.9.254
    port: 161
protocol: udp
```



# show exclude

**show** コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除するには、特権 EXEC モードで **show exclude** コマンドを使用します。

**show [ configuration | events | settings ] | exclude regular-expression**

構文説明		縦棒は、出力処理指定が続くことを意味します。
	regular-expression	<b>show</b> コマンド出力に存在する任意の正規表現。

デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

EXEC

サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ (current-config のみ)、ビューア (current-config のみ)

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	4.0(2)	<b>show</b> コマンドの <b>exclude</b> 拡張を追加。

使用上のガイドライン

正規表現の引数は大文字小文字を区別し、複雑な照合の要件を指定できます。

例

次の例は、正規表現「ip」を排除した出力を示します。

```
sensor# show configuration | exclude ip
! -----
! Version 5.0(0.26)
! Current configuration last modified Thu Feb 17 04:25:15 2005
! -----
display-serial
! -----
service analysis-engine
exit
! -----
service authentication
exit
! -----
service event-action-rules rules0
exit
! -----
service host
network-settings
host-name sensor
access-list 0.0.0.0/0
login-banner-text This message will be displayed on user login.
exit
time-zone-settings
offset -360
standard-time-zone-name CST
--MORE-
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>more begin</b>	<b>more</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
	<b>more exclude</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
	<b>more include</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。
	<b>show begin</b>	特定の <b>show</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
	<b>show include</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。

## show history

現行のメニューで入力したコマンドのリストを表示するには、すべてのモードで **show history** コマンドを使用します。

### show history

#### 構文説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

#### デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

#### コマンド モード

すべてのモード

#### サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ、ビューア

#### コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

#### 使用上のガイドライン

**show history** コマンドでは、現行メニューで入力したコマンドの記録が表示されます。履歴バッファに記録されるコマンド数は 50 です。

#### 例

次の例は、**show history** コマンドで表示されるコマンドの記録を示します。

```
sensor# show history
show users
show events
sensor#
```

# show include

**show** コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示するには、特権 EXEC モードで **show include** コマンドを使用します。

```
show [ configuration | events | settings ] | include regular-expression
```

## 構文説明

	縦棒は、出力処理指定が続くことを意味します。
regular-expression	show コマンド出力に存在する任意の正規表現。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ (current-config のみ)、ビューア (current-config のみ)

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。
4.0(2)	show コマンドの include 拡張を追加。

## 使用上のガイドライン

正規表現の引数は大文字小文字を区別し、複雑な照合の要件を指定できます。

**show settings** コマンドの出力では、照合要求のヘッダー情報も表示され、照合コンテキストを判別できます。

## 例

次の例は、正規表現「ip」を含む行のみの出力を示します。

```
sensor# show configuration | include ip
host-ip 10.89.147.31/25,10.89.147.126
sensor#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>more begin</b>	<b>more</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
<b>more exclude</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。
<b>more include</b>	<b>more</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行のみを表示します。
<b>show begin</b>	特定の <b>show</b> コマンドの出力を検索し、指定した文字列が最初に出現した位置から表示します。
<b>show exclude</b>	<b>show</b> コマンドの出力をフィルタ処理して、特定の正規表現を含む行を排除します。


# show interfaces

すべてのシステム インターフェイスの統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで `show interfaces` コマンドを使用します。このコマンドでは、**show interfaces management**、**show interfaces fastethernet**、および **show interfaces gigabitethernet** を表示します。

**show interfaces [clear]**

**show interfaces {fastethernet | gigabitethernet | management } [slot/port]**

## 構文説明

<b>clear</b>	診断をクリアします。
<b>fastethernet</b>	FastEthernet インターフェイスの統計情報を表示します。
<b>gigabitethernet</b>	GigabitEthernet インターフェイスの統計情報を表示します。
<b>management</b>	Management インターフェイスの統計情報を表示します。
	 <b>(注)</b> このキーワードは、Management とマークされた外部ポートを持つプラットフォームでのみサポートされます。その他のプラットフォームの管理インターフェイスは、インターフェイスの種類（通常、FastEthernet）に基づいて、 <b>show interfaces</b> の出力で表示されます。
<i>slot/port</i>	スロットとポートの情報については、適切なハードウェア マニュアルを参照してください。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## サポートされるユーザ ロール

管理者、オペレータ、ビューア

## コマンド履歴

リリース	修正
5.0	<b>show interfaces group</b> 、 <b>show interfaces sensing</b> 、および <b>show interfaces command-control</b> を削除。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、コマンド、コントロール、およびセンシング インターフェイスに関する統計情報を表示します。clear オプションで統計情報をクリアしてリセットすることもできます。

例 次の例は、インターフェイス統計情報を示します。

```
sensor# show interfaces
Interface Statistics
  Total Packets Received = 0
  Total Bytes Received = 0
  Missed Packet Percentage = 0
  Current Bypass Mode = Auto_off
MAC statistics from interface GigabitEthernet0/0
  Media Type = TX
  Missed Packet Percentage = 0
  Inline Mode = Unpaired
  Pair Status = N/A
  Link Status = Down
  Link Speed = N/A
  Link Duplex = N/A
  Total Packets Received = 0
  Total Bytes Received = 0
  Total Multicast Packets Received = 0
  Total Broadcast Packets Received = 0
  Total Jumbo Packets Received = 0
  Total Undersize Packets Received = 0
  Total Receive Errors = 0
  Total Receive FIFO Overruns = 0
  Total Packets Transmitted = 0
  Total Bytes Transmitted = 0
  Total Multicast Packets Transmitted = 0
--MORE--
```

# show inventory

PEP 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。このコマンドは、センサーの PID、VID および SN で構成された UDI 情報を表示します。

## show inventory

### 構文説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ、ビューア

### コマンド履歴

リリース	修正
5.0	このコマンドを導入。

### 使用上のガイドライン

これは、Cisco PEP ポリシーで要求される **show inventory** IOS コマンドと同じです。**show inventory** の出力は、ハードウェアによって異なります。

### 例

次の例は、**show inventory** コマンドの出力例を示します。

```
sensor# show inventory
NAME: "Chassis", DESCR: "Chasis-4240"
PID: 4240-515E , VID: V04, SN: 639156

NAME: "slot 0", DESCR: "4 port I/O card"
PID: 4240-4IOE , VID: V04, SN: 4356785466
sensor#
```

# show privilege

現行の権限レベルを表示するには、特権 EXEC モードで **show privilege** コマンドを使用します。

## show privilege

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ、ビューア

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用して、現行の権限レベルを表示します。権限レベルは、管理者だけが変更できます。詳細については、**username** コマンドを参照してください。

**例** 次の例は、ユーザの権限を示します。


```
sensor# show privilege
Current privilege level is viewer
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>username</b>	ローカル センサーのユーザを作成します。

# show settings

現行のサブモードに含まれる構成の内容を表示するには、サービス コマンド モードで **show settings** コマンドを使用します。

## show settings [ terse ]

構文説明	<b>terse</b>	出力を簡潔に表示します。
デフォルト		デフォルトの動作または値はありません。
コマンド モード		すべてのサービス コマンド モード
サポートされるユーザロール		管理者、オペレータ、ビューア（最上位コマンドツリーの表示のみ）
コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
使用上のガイドライン		このコマンドは、IPS 固有です。
		
(注)		このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。



例

次の例は、NAC 構成モードでの **show settings** コマンドの出力を示します。

```
sensor# configure terminal
sensor(config)# service network-access
sensor(config-net)# show settings
  general
-----
  log-all-block-events-and-errors: true <defaulted>
  enable-nvram-write: false <defaulted>
  enable-acl-logging: false <defaulted>
  allow-sensor-block: true default: false
  block-enable: true <defaulted>
  block-max-entries: 250 <defaulted>
  max-interfaces: 250 <defaulted>
  master-blocking-sensors (min: 0, max: 100, current: 0)
-----
  never-block-hosts (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
  never-block-networks (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
  block-hosts (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
  block-networks (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
  user-profiles (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
  cat6k-devices (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
  router-devices (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
  firewall-devices (min: 0, max: 250, current: 0)
-----
sensor(config-net)#
```

次の例は、シグニチャ定義サブモードでの **show settings terse** の出力を示します。

```

sensor# configure terminal
sensor(config)# service signature-definition sig0
sensor(config-sig)# show settings terse
  variables (min: 0, max: 256, current: 2)
-----
  <protected entry>
  variable-name: WEBPORTS
  variable-name: user2
-----
application-policy
-----
  http-policy
-----
  http-enable: false <defaulted>
  max-outstanding-http-requests-per-connection: 10 <defaulted>
  aic-web-ports: 80-80,3128-3128,8000-8000,8010-8010,8080-8080,8888-8888,
24326-24326 <defaulted>
-----
  ftp-enable: true default: false
-----
fragment-reassembly
-----
  ip-reassemble-mode: nt <defaulted>
-----
stream-reassembly
-----
  tcp-3-way-handshake-required: true <defaulted>
  tcp-reassembly-mode: strict <defaulted>
--MORE--

```

次の例は、フィルタ処理された **show settings** の出力を示します。このコマンドは、HTTP が含まれる行のみを出力します。

```


sensor# configure terminal
sensor(config)# service signature-definition sig0
sensor(config-sig)# show settings | include HTTP
Searching:
  sig-string-info: Bagle.Q HTTP propagation (jpeg) <defaulted>
  sig-string-info: Bagle.Q HTTP propagation (php) <defaulted>
  sig-string-info: GET ftp://@@:@@/pub HTTP/1.0 <defaulted>
  sig-name: IMail HTTP Get Buffer Overflow <defaulted>
  sig-string-info: GET shellcode HTTP/1.0 <defaulted>
  sig-string-info: ..%c0%af..*HTTP <defaulted>
  sig-string-info: ..%c1%9c..*HTTP <defaulted>
  sig-name: IOS HTTP Unauth Command Execution <defaulted>
  sig-name: Null Byte In HTTP Request <defaulted>
  sig-name: HTTP tunneling <defaulted>
  sig-name: HTTP tunneling <defaulted>
  sig-name: HTTP tunneling <defaulted>
  sig-name: HTTP tunneling <defaulted>
  sig-name: HTTP CONNECT Tunnel <defaulted>
  sig-string-info: CONNECT.*HTTP/ <defaulted>
  sig-name: HTTP 1.1 Chunked Encoding Transfer <defaulted>
  sig-string-info: INDEX / HTTP <defaulted>
  sig-name: Long HTTP Request <defaulted>
  sig-string-info: GET \x3c400+ chars? HTTP/1.0 <defaulted>
  sig-name: Long HTTP Request <defaulted>
  sig-string-info: GET .....?\x3c400+ chars> HTTP/1.0 <defaulted>
  sig-string-info: /mod_ssl:error:HTTP-request <defaulted>
  sig-name: Dot Dot Slash in HTTP Arguments <defaulted>
  sig-name: HTTPBench Information Disclosure <defaulted>
--MORE--

```

# show ssh authorized-keys

現行ユーザの公開 RSA キーを表示するには、特権 EXEC モードで **show ssh authorized-keys** コマンドを使用します。

**show ssh authorized-keys** [*id*]

構文説明	<i>id</i>	許可されたキーを一意に特定する 1 ~ 256 文字の文字列。数字、「_」、および「-」は有効ですが、スペースと「?」は使用できません。
デフォルト		デフォルトの動作または値はありません。
コマンド モード		EXEC
サポートされるユーザロール		管理者、オペレータ、ビューア
コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
使用上のガイドライン	オプションの ID を指定せずにこのコマンドを実行すると、システムで設定済みの ID のリストが表示されます。特定の ID を指定してコマンドを実行すると、その ID に関連付けられたキーが表示されます。このコマンドは、IPS 固有です。	
	 (注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。	

例 次の例は、SSH 認証キーのリストを表示します。

```
sensor# show ssh authorized-keys
system1
system2
system3
system4
```

次の例は、system1 の SSH キーを表示します。

```
sensor# show ssh authorized-keys system1

1023 37
66022272955660983338089706716372943357082868686000817201780243492180421420781303592082
95091017013584805250399939321125031474527683786209111899866537160898131479220860447399
11341369642870682319361928148521864094557416306138786468335115835910404940213136954353
39616344979349705016792583146548622146467421997057
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>ssh authorized-key</b>	現行ユーザに公開キーを追加し、クライアントが RSA 認証を使用してローカル SSH サーバにログインできるようにします。

# show ssh server-key

SSH サーバのホスト キーとホスト キーのフィンガープリントを表示するには、特権 EXEC モードで **show ssh server-key** コマンドを使用します。

## show ssh server-key

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンド モード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ、ビューア

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

**例** 次の例は、**show ssh server-key** コマンドの出力を示します。

```
sensor# show ssh server-key
1024 35 144719237233791547030730646600884648599022074867561982783071499320643934
48734496072779375489584407249259840037709354850629125941930828428605183115777190
69953460097510388011424663818234783053872210554889384417232132153750963283322778
52374794118697053304026570851868326130246348580479834689461788376232451955011
MD5: F3:10:3E:BA:1E:AB:88:F8:F5:56:D3:A6:63:42:1C:11
Bubble Babble: xucis-hehon-kizog-nedeg-zunom-kolyn-syzec-zasyk-symuf-rykum-sexyx
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>ssh generate-key</b>	センサーで SSH サーバが使用するサーバ ホスト キーを変更します。

## show ssh host-keys

センサーが接続に使用できるリモート SSH サーバの公開キーを含む既知のホスト テーブルを表示するには、特権 EXEC モードで **show ssh host-keys** を使用します。

**show ssh host-keys** [*ipaddress*]

構文説明	<i>ipaddress</i>	ピリオドで区切られた 4 オクテットの 32 ビットアドレス。X.X.X.X、ここで X は 0 ~ 255。
------	------------------	---

デフォルト      デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード      EXEC

サポートされるユーザロール      管理者、オペレータ、ビューア

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	4.0(1)	コマンドへの Bubble Babble および MD5 の出力を追加。

使用上のガイドライン      オプションの IP アドレス ID を指定せずにこのコマンドを実行すると、公開キーで設定済みの IP アドレスのリストが表示されます。特定の IP アドレスを指定してコマンドを実行すると、その IP アドレスに関連付けられたキーが表示されます。このコマンドは、IPS 固有です。



(注)      このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

例      次の例は、**show ssh host-keys** コマンドの出力を示します。

```
sensor# show ssh host-keys 10.1.2.3
1024 35 144719237233791547030730646600884648599022074867561982783071499320643934
48734496072779375489584407249259840037709354850629125941930828428605183115777190
69953460097510388011424663818234783053872210554889384417232132153750963283322778
52374794118697053304026570851868326130246348580479834689461788376232451955011
MD5: F3:10:3E:BA:1E:AB:88:F8:F5:56:D3:A6:63:42:1C:11
Bubble Babble: xucis-hehon-kizog-nedeg-zunom-kolyn-syzec-zasyk-symuf-rykum-sexyx
sensor#
```


関連コマンド	コマンド	説明
	ssh host-key	既知のホスト テーブルにエントリを追加します。

# show statistics

要求した統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show statistics** コマンドを使用します。

```
show statistics { analysis-engine | authentication | denied-attackers | event-server |
event-store | host | logger | network-access | notification | sdee-server |
transaction-source | virtual-sensor | web-server } [ clear ]
```

## 構文説明

<b>clear</b>	統計情報が取得された後、統計情報をクリアします。
	
(注)	このオプションは、分析エンジン、ホスト、またはネットワーク アクセスの統計情報には使用できません。
<b>analysis-engine</b>	分析エンジン統計情報を表示します。
<b>authentication</b>	許可および認証統計情報を表示します。
<b>denied-attackers</b>	拒否する IP アドレスおよび各攻撃者からのパケット数のリストを表示します。
<b>event-server</b>	イベント サーバ統計情報を表示します。
<b>event-store</b>	イベント ストア統計情報を表示します。
<b>host</b>	ホスト (メイン) 統計情報を表示します。
<b>logger</b>	ログ機能統計情報を表示します。
<b>network-access</b>	NAC 統計情報を表示します。
<b>notification</b>	通知統計情報を表示します。
<b>sdee-server</b>	SDEE サーバ統計情報を表示します。
<b>transaction-source</b>	トランザクション ソース統計情報を表示します。
<b>web-server</b>	Web サーバ統計情報を表示します。
<b>virtual-sensor</b>	仮想センサー統計情報を表示します。
<i>name</i>	仮想センサーの論理名。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## サポートされるユーザ ロール

管理者、オペレータ、ビューア

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。
5.0	<b>analysis-engine</b> 、 <b>virtual-sensor</b> 、および <b>denied-attackers</b> を追加。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

例 次の例は、認証統計情報を表示します。

```
sensor# show statistics authentication
General
  totalAuthenticationAttempts = 9
  failedAuthenticationAttempts = 0
sensor#
```

次の例は、イベントストア統計情報を表示します。

```
sensor# show statistics event-store
Event store statistics
  General information about the event store
    The current number of open subscriptions = 1
    The number of events lost by subscriptions and queries = 0
    The number of queries issued = 1
    The number of times the event store circular buffer has wrapped = 0
  Number of events of each type currently stored
    Debug events = 0
    Status events = 129
    Log transaction events = 0
    Shun request events = 0
    Error events, warning = 8
    Error events, error = 13
    Error events, fatal = 0
    Alert events, informational = 0
    Alert events, low = 0
    Alert events, medium = 0
    Alert events, high = 0
sensor#
```

次の例は、ログ機能統計情報を表示します。

```
sensor# show statistics logger
The number of Log interprocessor FIFO overruns = 0
The number of syslog messages received = 27
The number of <evError> events written to the event store by severity
  Fatal Severity = 0
  Error Severity = 13
  Warning Severity = 35
  TOTAL = 48
The number of log messages written to the message log by severity
  Fatal Severity = 0
  Error Severity = 13
  Warning Severity = 8
  Timing Severity = 0
  Debug Severity = 0
  Unknown Severity = 26
  TOTAL = 47
sensor#
```

次の例は、NAC 統計情報を表示します。

```
sensor# show statistics network-access
Current Configuration
  LogAllBlockEventsAndSensors = true
  EnableNvramWrite = false
  EnableAclLogging = false
  AllowSensorBlock = false
  BlockMaxEntries = 250
  MaxDeviceInterfaces = 250
State
  BlockEnable = true
sensor#
```

# show tech-support

現行システムの状況を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

**show tech-support** [**page**] [**password**] [**destination-url** *destination url*]

構文説明	page	password	destination-url	<i>destination url</i>
	出力は 1 度に 1 ページの情報が表示されます。Enter キーを押して次の出力行を表示するか、スペースバーを押して次ページの情報を表示します。page を使用しない場合、出力は改ページなしで表示されます (オプション)。	出力にパスワードとその他のセキュリティ情報が表示されます。password を指定しない場合、パスワードとその他のセキュリティ機密情報は、<removed> (デフォルト) というラベルで置き換えられます (オプション)。	情報を HTML でフォーマット化し、このタグに続く宛先に送信することを示すタグ。このオプションを選択しない場合、出力は画面に表示されません (オプション)。	レポート ファイルの宛先。URL を指定すると、出力は HTML ファイルにフォーマット化されて、指定された宛先に送信されます。指定しない場合は画面に表示されます (オプション)。

デフォルト 「構文説明」の表を参照してください。

コマンド モード EXEC

サポートされるユーザロール 管理者

コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。



使用上のガイドライン (注) IOS バージョン 12.0 では、このコマンドの宛先部分はサポートされません。

宛先 URL の正確なフォーマットはファイルにより異なります。ファイル名を選択できますが、.html で終了する必要があります。

次の宛先タイプを指定できます。

- **ftp:** : FTP ネットワーク サーバの宛先 URL。このプレフィックスの構文は、ftp:[[/username@location]/relativeDirectory]/filename または ftp:[[/username@location]/absoluteDirectory]/filename です。
- **scp:** : SCP ネットワーク サーバの宛先 URL。このプレフィックスの構文は、scp:[[/username@]location]/relativeDirectory]/filename または scp:[[/username@]location]/absoluteDirectory]/filename です。

レポートには、次のコマンドからの HTML リンク出力が含まれています。

- **show interfaces**
- **show statistics network-access**



- **cidDump**

---

**例**

次の例は、tech-support の出力を ~csidsuser/reports/sensor1Report.html ファイルに保存します。パスは、csidsuser のホーム アカウントを基準とします。

```
sensor# show tech support destination-url  
ftp://csidsuser@10.2.1.2/reports/sensor1Report.html password:*****
```

次の例は、tech-support の出力を /absolute/reports/sensor1Report.html ファイルに保存します。

```
sensor# show tech support destination-url  
ftp://csidsuser@10.2.1.2//absolute/reports/sensor1Report.html password:*****
```

# show tls-fingerprint

サーバの TLS 証明書のフィンガープリントを表示するには、特権 EXEC モードで **show tls-fingerprint** を使用します。

## show tls fingerprint

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ、ビューア

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

**例** 次の例は、**show tls-fingerprint** コマンドの出力を示します。

```
sensor# show tls fingerprint
MD5: 1F:94:6F:2E:38:AD:FB:2C:42:0C:AE:61:EC:29:74:BB
SHA1: 16:AC:EC:AC:9D:BC:84:F5:D8:E4:1A:05:C4:01:BB:65:7B:4F:FC:AA
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>tls generate-key</b>	サーバの自己署名 X.509 証明書を再生成します。

# show tls trusted-hosts

センサーの信頼できるホストを表示するには、特権 EXEC モードで **show tls trusted-hosts** コマンドを使用します。

**show tls trusted-hosts [ id ]**

構文説明	<i>id</i> 許可されたキーを一意に特定する 1 ~ 32 文字の文字列。数字、「_」、および「-」は有効ですが、スペースと「?」は使用できません。
------	---

デフォルト	デフォルトの動作または値はありません。
-------	---------------------

コマンド モード	EXEC
----------	------

サポートされるユーザロール	管理者、オペレータ、ビューア
---------------	----------------

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

使用上のガイドライン	オプションの ID を指定せずにこのコマンドを実行すると、システムで設定済みの ID のリストが表示されます。特定の ID を指定してコマンドを実行すると、その ID に関連付けられた証明書のフィンガープリントが表示されます。
------------	---

このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

例	次の例は、 <b>show tls trusted-hosts</b> コマンドの出力を示します。
---	---

```
sensor# show tls trusted-hosts 172.21.172.1
MD5: 1F:94:6F:2E:38:AD:FB:2C:42:0C:AE:61:EC:29:74:BB
SHA1: 16:AC:EC:AC:9D:BC:84:F5:D8:E4:1A:05:C4:01:BB:65:7B:4F:FC:AA
sensor#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>tls trusted-host</b>	信頼できるホストをシステムに追加します。

# show users

現在 CLI にログインしているユーザに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

**show users [ all ]**

構文説明	<b>all</b>	ログイン状況に関係なく、システムで構成されているすべてのユーザ アカウ ントのリストを表示します (オプション)。
------	------------	--

デフォルト デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード EXEC

サポートされるユーザロール 管理者、オペレータ、ビューア (自分のログインの表示のみ)

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
	4.1	ロックされたアカウントを表示するようにアップデート。 <b>show users all</b> での ビューアの表示を制限。

使用上のガイドライン CLI でこのコマンドを使用すると、ID、ユーザ名、および権限を表示できます。説明の横の「\*」は現行ユーザを示します。カッコ「()」で囲まれたユーザ名は、アカウントがロックされていることを示します。アカウントは、ユーザが連続して X 回、不正なパスワードを入力するとロックされます。ロックされたユーザのパスワードを **password** コマンドでリセットすると、アカウントのロックが解除されます。

同時にログインできる CLI ユーザの最大数は、プラットフォームによって異なります。



(注) このコマンドの出力は、IOS 12.0 コマンドの場合とは異なります。

例 次の例は、**show users** コマンドの出力を示します。

sensor# **show users**

```

          CLI ID      User           Privilege
-----
          1234      notheruser   viewer
*         9802      curuser      operator
          5824      tester       administrator

```

次の例は、tester2 のユーザ アカウントがロックされていることを示します。

```
sensor# show users all
```

	CLI ID	User	Privilege
	1234	notheruser	viewer
*	9802	curuser	operator
	5824	tester	administrator
		(tester2)	viewer
		foobar	operator

次の例は、ビューアに対する **show users all** の出力を示します。

```
sensor# show users all
```

	CLI ID	User	Privilege
*	9802	tester	viewer
	5824	tester	viewer

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear line</b>	別の CLI セッションを終了します。

# show version

すべてのインストールされている OS パッケージ、シグニチャ パッケージ、およびシステムで実行している IPS プロセスに関するバージョン情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

## show version

### 構文説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ、ビューア

### コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

### 使用上のガイドライン

**show version** コマンドの出力は IPS 固有で、IOS コマンドの出力とは異なります。回復パーティション情報は、アプライアンスでのみ使用可能です。

シリアル番号の後ろに、次のいずれかのライセンス情報が表示されます。

```
No license present
```

```
Expired license: <expiration-date>
```

```
Valid license, expires: <expiration-date>
```

```
Valid demo license, expires: <expiration-date>
```

失効するライセンスの形式は dd-mon-yyyy です (04-dec-2004 など)。

例 次の例は、**show version** コマンドの出力を示します。

```
sensor# show version
Application Partition:

Cisco Intrusion Prevention System, Version 5.0(0.1)S91(0.1)

OS Version 2.4.26-IDS-smp-bigphys
Platform: IDS-4235
No license present
Sensor up-time is 6 days.
Using 701513728 out of 922509312 bytes of available memory (76% usage)
Using 527.6M out of 15.9G bytes of available disk space (3% usage)
Using 192.0k out of 31.0M bytes of available disk space (1% usage)

MainApp          2004_Aug_16_03.00  (Release)  2004-08-16T03:19:41-0500  Running
AnalysisEngine  2004_Aug_16_03.00  (Release)  2004-08-16T03:19:41-0500  Running
CLI              2004_Aug_16_03.00  (Release)  2004-08-16T03:19:41-0500

Upgrade History:

No upgrades installed

Recovery Partition Version 5.0.1.S91.0.1

sensor#
```

# ssh authorized-key

現行ユーザに公開キーを追加し、クライアントが RSA 認証を使用してローカル SSH サーバにログインできるようにするには、グローバル構成モードで **ssh authorized-key** コマンドを使用します。このコマンドを **no** 形式で使用すると、システムから許可されたキーを削除できます。

**ssh authorized-key id key-modulus-length public-exponent public-modulus**

**no ssh authorized-key id**

## 構文説明

<i>id</i>	許可されたキーを一意に特定する 1 ～ 256 文字の文字列。数字、「_」、および「-」は有効ですが、スペースと「?」は使用できません。
<i>key-modulus-length</i>	511 ～ 2048 の範囲の ASCII 10 進整数。
<i>public-exponent</i>	3 ～ 2 <sup>32</sup> の範囲の ASCII 10 進整数。
<i>public-modulus</i>	ASCII 10 進整数。(2 <sup>x</sup> (キーモジュラス長)) < x < (2 <sup>x</sup> (キーモジュラス長)) の x 値。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンドモード

グローバル構成

## サポートされるユーザロール

管理者、オペレータ、ビューア

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにより、現行ユーザの既知のホスト テーブルにエントリが追加されます。キーを変更するには、エントリを削除し、再作成する必要があります。

このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

## 例

次の例は、既知のホスト テーブルにエントリを追加する方法を示します。

```
sensor(config)# ssh authorized-key system1 1023 37
66022272955660983338089706716372943357082868686000817201780243492180421420781303592082
95091017013584805250399939321125031474527683786209111899866537160898131479220860447399
11341369642870682319361928148521864094557416306138786468335115835910404940213136954353
39616344979349705016792583146548622146467421997057
sensor(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ssh authorized-keys</b>	現行ユーザの公開 RSA キーを表示します。



## ssh generate-key

センサーで SSH サーバが使用するサーバ ホスト キーを変更するには、特権 EXEC モードで **ssh generate-key** コマンドを使用します。

### ssh generate-key

#### 構文説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

#### デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

#### コマンド モード

EXEC

#### サポートされるユーザロール

管理者

#### コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

#### 使用上のガイドライン

表示されるキーのフィンガープリントは、このセンサーと今後接続されるリモート SSH クライアントが SSH プロトコルバージョン 1.5 を使用している場合、リモートクライアントで表示されるフィンガープリントと一致します。

このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

#### 例

次の例は、新しい SSH サーバ ホスト キーを生成する方法を示します。

```
sensor# ssh generate-key
MD5: 49:3F:FD:62:26:58:94:A3:E9:88:EF:92:5F:52:6E:7B
Bubble Babble: xebiz-vykyk-fekuh-rukuh-cabaz-paret-gosym-serum-korus-fypop-huxyx
sensor#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ssh server-key</b>	SSH サーバのホスト キーとホスト キーのフィンガープリントを表示します。

## ssh host-key

既知のホスト テーブルにエントリを追加するには、グローバル構成モードで **ssh host-key** コマンドを使用します。モジュラス、指数、および長さを指定しない場合、要求された IP アドレスの MD5 フィンガープリントおよび Bubble Babble がシステムに表示されて、テーブルにキーを追加できます。このコマンドを **no** 形式で使用すると、既知のホスト テーブルからエントリを削除できます。

**ssh host-key** *ipaddress* [ *key-modulus-length* *public-exponent* *public-modulus* ]

**no ssh host-key** *ipaddress*

構文説明	
<i>ipaddress</i>	ピリオドで区切られた 4 オクテットの 32 ビットアドレス。X.X.X.X、ここで X は 0 ~ 255。
<i>key-modulus-length</i>	511 ~ 2048 の範囲の ASCII 10 進整数。
<i>public-exponent</i>	3 ~ 2 <sup>32</sup> の範囲の ASCII 10 進整数。
<i>public-modulus</i>	ASCII 10 進整数。(2 <sup>x</sup> (キーモジュラス長)) < x < (2 <sup>x</sup> (キーモジュラス長)) の x 値。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンド モード** グローバル構成

**サポートされるユーザロール** 管理者、オペレータ

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** **ssh host-key** コマンドを使用すると、既知のホスト テーブルにエントリを追加できます。IP アドレスのキーを変更するには、エントリを削除し、再作成する必要があります。

モジュラス、指数、および長さを指定しない場合、指定された IP アドレスの SSH サーバに接続して、要求されたキーをネットワーク経由で取得します。指定するホストは、コマンドを発行した時点でアクセス可能である必要があります。

このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

## 例

次の例は、10.1.2.3 の既知のホスト テーブルにエントリを追加する方法を示します。

```
sensor(config)# ssh host-key 10.1.2.3
1024 35
13930621354183524038533292225396881468568452352006413199783990511364012021781686969670
87217046313228442920738517305650448790826706775541579370584852039955721146312966045521
61309712601068614812749969593513740598331393154884988302302182922353335152653860589163
651944997842874583627883277460138506084043415861927
sensor(config)#
```

次の例は、10.1.2.3 の既知のホスト テーブルにエントリを追加する方法を示します。

```
sensor(config)# ssh host-key 10.1.2.3
MD5 fingerprint is 49:3F:FD:62:26:58:94:A3:E9:88:EF:92:5F:52:6E:7B
Bubble Babble is xebiz-vykyk-fekuh-rukuh-cabaz-paret-gosym-serum-korus-fypop-huxyx
Would you like to add this to the known hosts table for this host? [yes]
sensor(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ssh host-key</b>	センサーが接続できるリモート SSH サーバの公開キーを含む既知のホスト テーブルを表示します。

# terminal

ログインセッションのターミナルプロパティを変更するには、特権 EXEC モードで **terminal** コマンドを使用します。

**terminal [length screen-length ]**

構文説明	<i>screen-length</i>	画面の行数を設定します。マルチ画面出力時に一時停止する条件を判別するには、この値を使用します。値ゼロの場合は、出力が画面長を超えても一時停止しません。デフォルトは 24 行です。この値は、ログインセッション間で保存されません。
デフォルト	「構文説明」の表を参照してください。	
コマンドモード	EXEC	
サポートされるユーザーロール	管理者、オペレータ、ビューア	
コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。
使用上のガイドライン	<b>terminal length</b> コマンドを使用すると、 <code>--more--</code> プロンプトが表示される前に、表示される行数を設定できます。	
例	次の例は、マルチ画面表示の画面間で一時停止しないように CLI を設定します。  <pre>sensor# terminal length 0 sensor#</pre> 次の例は、マルチ画面表示の各画面について 10 行表示するように CLI を設定します。  <pre>sensor# terminal length 10 sensor#</pre>	

# tls generate-key

サーバの自己署名 X.509 証明書を再生成するには、特権 EXEC モードで **tls generate-key** を使用します。ホストで自己署名証明書を使用しない場合は、エラーが返されます。

## tls generate-key

**構文説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作または値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**サポートされるユーザロール** 管理者

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、IPS 固有です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

**例** 次の例は、サーバの自己署名証明書を生成する方法を示します。

```
sensor(config)# tls generate-key
MD5: 1F:94:6F:2E:38:AD:FB:2C:42:0C:AE:61:EC:29:74:BB
SHA1: 16:AC:EC:AC:9D:BC:84:F5:D8:E4:1A:05:C4:01:BB:65:7B:4F:FC:AA
sensor(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show tls-fingerprint</b>	サーバの TLS 証明書のフィンガープリントを表示します。

## tls trusted-host

信頼できるホストをシステムに追加するには、グローバル構成モードで **tls trusted-host** コマンドを使用します。

**tls trusted-host ip-address ip-address [ port port ]**

**no tls trusted-host ip-address ip-address [ port port ]**

**no tls trusted-host id id**

構文説明	<i>ip-address</i>	追加または削除するホストの IP アドレス。
	<i>port</i>	接続するホストのポート番号。デフォルトはポート 443 です (オプション)。

デフォルト 「構文説明」の表を参照してください。

コマンド モード グローバル構成

サポートされるユーザロール 管理者、オペレータ

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、要求されたホスト / ポートの現行のフィンガープリントを取得して、その結果を表示できます。追加が要求されているホストから直接取得した情報に基づいて、フィンガープリントを受け入れるか拒否するかを選択できます。

各証明書は、ID フィールド付きで保存されます。IP アドレスおよびデフォルトポートの ID フィールドは *ipaddress* で、IP アドレスおよび指定ポートの ID フィールドは *ipaddress:port* です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

例 次のコマンドは、信頼できるホスト テーブルに、IP アドレス 172.21.172.1、ポート 443 のエントリを追加します。

```
sensor(config)# tls trusted-host ip-address 172.21.172.1
Certificate MD5 fingerprint is D4:C2:2F:78:B5:C6:30:F2:C4:6A:8E:5D:6D:C0:DE:32
Certificate SHA1 fingerprint is
36:42:C9:1B:9F:A4:A8:91:7F:DF:F0:32:04:26:E4:3A:7A:70:B9:95
Would you like to add this to the trusted certificate table for this host? [yes]
Certificate ID: 172.21.172.1 successfully added to the TLS trusted host table.
sensor(config)#
```



(注) コマンドが正常に終了すると、要求された証明書に関して保存された証明書 ID が表示されます。

次のコマンドは、IP アドレス 172.21.172.1、ポート 443 の信頼できるホスト エントリを削除します。

```
sensor(config)# no tls trusted-host ip-address 172.21.172.1
sensor(config)#
```

または、次のコマンドを使用して、IP アドレス 172.21.172.1、ポート 443 の信頼できるホスト エントリを削除できます。

```
sensor(config)# no tls trusted-host id 172.21.172.1
sensor(config)#
```

次のコマンドは、信頼できるホスト テーブルに、IP アドレス 10.1.1.1、ポート 8000 のエントリを追加します。

```
sensor(config)# tls trusted-host ip-address 10.1.1.1 port 8000
Certificate MD5 fingerprint is D4:C2:2F:78:B5:C6:30:F2:C4:6A:8E:5D:6D:C0:DE:32
Certificate SHA1 fingerprint is
36:42:C9:1B:9F:A4:A8:91:7F:DF:F0:32:04:26:E4:3A:7A:70:B9:95
Would you like to add this to the trusted certificate table for this host? [yes]
Certificate ID: 10.1.1.1:8000 successfully added to the TLS trusted host table.
sensor(config)#
```



(注) コマンドが正常に終了すると、要求された証明書に関して保存された証明書 ID が表示されます。

次のコマンドは、IP アドレス 10.1.1.1、ポート 8000 の信頼できるホスト エントリを削除します。

```
sensor(config)# no tls trusted-host ip-address 10.1.1.1 port 8000
sensor(config)#
```

または、次のコマンドを使用して、IP アドレス 10.1.1.1、ポート 8000 の信頼できるホスト エントリを削除できます。

```
sensor(config)# no tls trusted-host id 10.1.1.1:8000
sensor(config)#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show tls trusted-hosts</code>	センサーの信頼できるホストを表示します。

# trace

IP パケットが宛先に送信されるルートを表示するには、特権 EXEC モードで **trace** コマンドを使用します。

**trace address [count]**

構文説明	<b>address</b>	ルートをトレースするシステムのアドレス。
	<b>count</b>	使用するホップ数。デフォルトは 4 です。有効な値は 1 ~ 256 です。

デフォルト 「構文説明」の表を参照してください。

コマンドモード EXEC

Command Types 管理者、オペレータ、ビューア

コマンド履歴	リリース	修正
	4.0	このコマンドを導入。

使用上のガイドライン **trace** コマンドには、コマンド割り込みはありません。コマンドは完了するまで実行する必要があります。

例 次の例は、**trace** コマンドの出力を示します。

```
sensor# trace 10.1.1.1
traceroute to 172.21.172.24 (172.21.172.24), 30 hops max, 40 byte packets 1
171.69.162.2 (171.69.162.2) 1.25 ms 1.37 ms 1.58 ms 2 172.21.172.24 (172.21.172.24)
0.77 ms 0.66 ms 0.68 ms
sensor#
```



# upgrade

サービス パック、シグニチャ アップデート、またはイメージアップグレードを適用するには、グローバル構成モードで **upgrade** コマンドを使用します。

**upgrade** *source-url*

## 構文説明

*source-url* 取得するアップグレードの場所。

## デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

## コマンド モード

グローバル構成

## サポートされるユーザロール

管理者

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

## 使用上のガイドライン

コマンドラインから、すべての必要なソースおよび宛先 URL 情報とユーザ名を入力できます。コマンド (**upgrade**) の後にプレフィックス (**ftp:** または **scp:**) だけを入力した場合は、適用されるパスワードを含む、不足している情報についてのプロンプトが表示されます。

ディレクトリは、必要なファイルへの絶対パスで指定する必要があります。アップグレードを繰り返す場合は、ファイル名を指定しないでください。指定した曜日の指定した時間に、繰り返しアップグレードを行うようにセンサーを設定できます。または、最初のアップグレードから指定した時間が経過した後で繰り返しアップグレードを行うように設定できます。

ソースを指定する場合は、次のガイドラインに従います。

- **ftp:** : FTP ネットワーク サーバのソース URL。このプレフィックスの構文は、`ftp:[[/username@]location]/relativeDirectory/filename` または `ftp:[[/username@]location]/absoluteDirectory/filename` です。
- **http:** : Web サーバのソース URL。このプレフィックスの構文は、`http:[[/username@]location]/directory/filename` です。
- **https:** : Web サーバのソース URL。このプレフィックスの構文は、`https:[[/username@]location]/directory/filename` です。



(注) HTTPS プロトコルを使用するには、TLS を使用する信頼できるホストをセットアップする必要があります。詳細については、コマンドを参照してください。

- **scp:** : SCP ネットワーク サーバのソース URL。このプレフィックスの構文は、`scp:[[/username@]location]/relativeDirectory/filename` または `scp:[[/username@]location]/absoluteDirectory/filename` です。



(注) このコマンドは、IOS 12.0 以前にはありません。

## username

例 次の例は、センサーに対して、指定されたアップグレードをすぐに確認するよう指示します。ディレクトリとパスは `tester` のユーザアカウントを基準とします。

```
sensor(config)# upgrade scp://tester@10.1.1.1/upgrade/sp.rpm
Enter password: *****
Re-enter password: *****
```

## username

ローカルセンサーのユーザを作成するには、グローバル構成モードで `username` コマンドを使用します。ユーザを作成するには、管理者になる必要があります。このコマンドを `no` 形式で使用すると、センサーからユーザを削除できます。この場合、ユーザは CLI と Web アクセスの両方から削除されます。

`username name [ password password ] [ privilege privilege ]`

`no username name`

## 構文説明

<b>name</b>	ユーザ名を指定します。有効なユーザ名の長さは 1 ～ 64 文字です。ユーザ名の先頭は、英数字にする必要があります。その他の文字には、すべての文字を使用できます。
<b>password</b>	ユーザのパスワードを指定します。有効なパスワードの長さは 6 ～ 32 文字です。スペースおよび「?」以外のすべての文字を使用できます。
<b>privilege</b>	ユーザの権限レベルを指定します。使用できるレベルは、サービス、管理者、オペレータ、ビューアで、デフォルトはビューアです。

## デフォルト

「構文説明」の表を参照してください。

## コマンドモード

グローバル構成

## サポートされるユーザロール

管理者

## コマンド履歴

リリース	修正
4.0	このコマンドを導入。

## 使用上のガイドライン

`username` コマンドを使用すると、ログインだけを目的としたユーザ名またはパスワード、またはその両方を認証できます。このコマンドを実行しているユーザは、自分自身を削除できません。

コマンドラインでパスワードを指定しなかった場合は、プロンプトが表示されます。`password` コマンドを使用すると、現行ユーザまたはシステムの既存のユーザのパスワードを変更できます。

`privilege` コマンドを使用すると、システムの既存のユーザの権限を変更できます。

## 例

次の例は、ビューアレベルの権限とパスワード `testpassword` を持つユーザ `tester` を追加します。

```
sensor(config)# username tester password testpassword
```

次の例は、入力パスワードが保護されていることを示します。

```
sensor(config)# username tester
Enter Login Password: *****
Re-enter Login Password: *****
```

次の例は、ユーザ「tester」の権限をオペレータに変更します。

```
sensor(config)# username tester privilege operator
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>password</b>	ローカル センサーのパスワードを更新します。
<b>privilege</b>	既存のユーザの権限レベルを変更します。

■ username